|  |  |
| --- | --- |
| 現代文2018年度第8回「二つの作品から、新しく考えたことは何だろう？」 | 作成者：濱部実施日：2018.10.29　(月曜日) |

**基本情報**

|  |  |
| --- | --- |
| 【単元の目的】生徒が、①小説に対して様々な解釈を認め、②自分なりの読む楽しさに納得感を持つ　　ようになる。【今回の授業のねらい】＊単元の目的達成のために、今回はどんな学びを生み出したいのか？♦二つの作品の総まとめとして位置付けたい。♦作品を通して何を考えたのか、自分にとっての「学び」を振り返る。さらに、大学生や他の生徒の学びと照らし合わせて、再考する。対象者（生徒・クラスの現状予想。テーマへの関心など。）＊以下は、単元の目的や今回の授業で取り組むことの視点を踏まえて書きましょう！生徒の現状　* アドバンストクラス。スタンダードよりも高い読解力をもつ。
* 文章への関心が高い。自分で本を色々購入している生徒もいる。
* 先生の発問に対して、ある程度的確に答える。

クラスの雰囲気・普段、先生からの問いかけ、呼びかけへの反応は良い。・集中と弛緩をきちんと分けて活動できる。・班の語り合いの時間でも、しっかり他の人に質問するなどの姿勢が見られる。 | テーマへの関心* 既に7回分の授業を終えて、井伏・太宰両作品の内容を把握している。
* 『待つ』を2回終え、『待つ』の文体・書き方に慣れている。
* 太宰の作品には、普段から読み慣れている。

【今回の目標】　＊今回の授業のねらいを達成するには、生徒が何を完了すれば良いのか？・自分の気付きを話す楽しさを知る・積極的にディスカッションで話す・全8回を振り返り、自分の読み・他者の読みを見つめ直す・大学生のまとめを聴く評価の観点と方法（目標と対応するように）　＊完了度合いを何で測るのか？何をもって完了と見なすか？・各生徒の発言量、論の深み（根拠・例示・具体性）・生徒同士の論の共有→作品の読みの深まり・楽しさ・振り返りシートに、目的目標・全8回授業の学習活動に基づいた振り返りが書けている準備物など・ワークシート(振り返りの欄も入れたもの)・参考用語り合いシート(大学生用)・名札その他今回は、授業冒頭に模試の説明が入るため授業時間は40分。 |

**タイムライン（計35/ 40分）**。＊曜日によって持てる時間が変わるので注意！　(月金土:45分　木:40分)

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 構成 | 時間（分） | 活動内容 | 活動のねらい | 予想される生徒の様子 | 大学生の対応 | 備考 |
| 導入 | 5分 | ・前回の復習、8回の目的の再確認・今回は、「総まとめ」であることを伝える☆井伏と太宰の師弟関係について話す。(授業案下の文 参照！) | ・授業に入る姿勢を作る・アウトラインを知る・授業のゴールを知る☆この2つの作品を扱ったことの繋がりに少し興味を持ってもらえたら◎。(今回のワークの思考に少し役立つかも) | ・ゴールがわかり、授業の意義を知る☆太宰に関しては以前からよく知っているが、井伏との関係を知ることで両作品の繋がりを意識する。(?) | ・ファシリが話すことに集中していれば、事前にサブ担当を設定しておいて、板書や、生徒の反応を観察しておく | 授業前の時間で、・受け持つチームの割り振り・板書担当と記述内容のすり合わせ・プリントの配布準備を済ませておく。 |
| 展開 | 全22分(6分)(8分)(8分) | 【発問】**「二つの作品を通して、新しく考えたことは何ですか？」**①ワークシートに、発問に対する自分の答えを書く。(個人)(6分)②体系移動- 2つの班を合体させる。(一つの川で1チームになる)- 四隅にいる子たちだけ、　ワークシート　ペン　下敷き(ノートとか)の3点を持って椅子だけで輪の中に入る。大学生も同じく輪の中にそれぞれ入る。③-1：『山椒魚』に関して語り合い- チームに入っている大学生が、発問に対する自分自身の話をする。(1~2分)- それを出発点に、生徒から質問を受けたり、お互いにコメントをしながら語り合いを進めていく。(6~7分)③-2：『待つ』に関して語り合い- チームに入っている大学生が、発問に対する自分自身の話をする。(1~2分)- それを出発点に、生徒から質問を受けたり、お互いにコメントをしながら語り合いを進めていく。(6~7分) | ここで重要なのは、作品から**「自分が」**何を考えたのか？ということ。例)△「この作品は、～～を言いたいんだと思った(他人事)。」↓〇「この作品は、～～を言いたいのだろう。特に現代の私たちにとっては＊＊の点において重要な注意喚起だと思った。(自分の考えたことも入っている。)」・これらの作品から、自分は何を考えたのかを振り返る。例) -自分の解釈を他の人とぶつけ ることを通して- 登場人物の言葉に注目して-作者の視点から物語を読み直したことを通して-時代と照らし合わせて↓-この作品をみんなで読むことに、こんな意味があるのだと思った。-この感情は、こんな言葉で表すことができるのだと知った。-小説というのはこんなおもしろさがあるのだと知った。-作者の言いたいことは自分たち高校生にとってこんな意味があると思った。　　　　　　　　　など | ワークシートに記入。机を班の形に変える。四隅の生徒だけ移動する。(物理的にも心理的にも、遠すぎるのを少しでも緩和するため)・話さない生徒が出る。・特定の生徒がよく話す。↓大学生に話を振られて・自分の中にある思いを、考えながら言葉にしていく。・お互いの意見に耳を傾ける。 | ワークシートに個人で取り組む前に、ファシリから**「自分が」**の説明をしっかり理解する。＊もちろんどちらの作品に、より影響を受けるかは生徒によるので、無理やり絞り出す必要はない、ということもきちんと伝える。**☆チームになった状態で、最初に担当大学生の考えたことを話す。(③-2も同様**)・盛り上がらないときは、チームの子に問いを投げたり話題を振ったりする。例)「私が今言ったことに対してはどう思う？」「○○くんはどう思った？」「○○くんはワークシートにこう書いてるけど、これと似てるかな？」など | 生徒のワークシートの現状としては、△のような記述をしていて特に自分の思考につなげていない生徒も一定数いるので、ここについては詳しく説明しておく。(ねらいに書いてあること)(・参考用語り合いシートを活用)ファシリから8分経過のアナウンスは入るが、③-1から③-2にいつ進むかは、チームにいる大学生が見極めて進めても良い。 |
| 振り返りまとめ | 計8分5分3分 | 机を元に戻して・振り返りシートに記入。(個人)全8回でやったこと(目的)の最後の確認+その日いる大学生から一言ずつ | ・自分たちが全8回で学んだことを確認する。 | ・大学生の話を聞く。・振り返りシートに記入する。 | ・シートには、自分の読みをきちんと踏まえた内容を書かせる。 | ・シートでも誘導が掛かってはいるが、誘導から外れている生徒がいないか。机間巡視で確認もする。・目的目標やねらいに関して、何が言いたいかをまとめて伝える。 |

(予備：5分）

【太宰と井伏の関わり】(コメントのURLも良かったら読んでね)

中学1年生の時に太宰(本名は**津島**)は井伏の『山椒魚』を読み、感銘を受けた。(太宰は17歳で同人誌を発行するほど本が好きだった。)

1930年(太宰21歳)、太宰は井伏宛に「会ってくれないと自殺する」という旨の手紙を送り、井伏のもとへ訪れた。その後師弟関係を築き、「太宰治」という名で執筆活動を本格的に始める。

(第6回でも扱ったように、)太宰は何度も金銭面や薬、心中未遂など色々と危なっかしい人生だったが、井伏はそれを見捨てずに太宰のことを見守り、時には太宰の執筆への姿勢に対して介入する程の関係だった。しかし戦後は二人の関係は疎遠になり(太宰から遠ざかって行った説が多い)、太宰が最後に心中したときの妻宛ての遺書には、井伏の名前が「井伏さんは悪人です」と載っていたという。

現在でも、太宰への井伏の恩恵を尊重する立場もあれば、太宰が死の直前に遺書を書きながら向き合った、デリケートで、且つ複雑な心境の真意に関心を寄せる人々もいる。